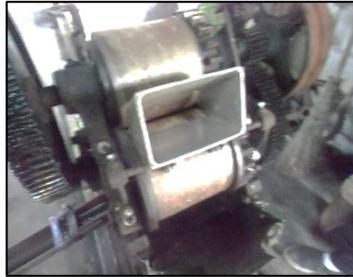




6年生の毎年のお仕事 砂糖釜の清掃を行いました

今年のキビ刈り・キビ締めがいよいよ今週末となりました。これまで、PTAの皆様による事前準備や子供たちの事前学習が進んでおり、あとは本番を迎えるのみとなりました。27日(水)には、6年生が砂糖を煮詰める釜磨きや掃き掃除をJA大岳支所で行いましたが、この釜一つをとっても、これまで協力いただいた方々の思いが感じられるような気がします。30年以上も学校でこの行事が続いているというのは、本当に素晴らしいこと。これまで引き継いでくださった皆様に感謝しながら当日を迎えます。(写真左:釜をピカピカに磨き上げている児童、右:サトウキビを絞る機械。四角の口からサトウキビを入れ、汁を絞ります。)



前途洋々



青海小、青海隊・・・「青海」という名前はどこから来ているの？ どなたかご存じありませんか？

次は、「青海」という地名でもない名称が学校に冠せられた由来・・・

「旧藩政時代、細川家は、領内を『手永』と呼ばれる行政区画に分けて村を束ね、各手永には『会所』と呼ばれる役所を置いた。この地には『郡浦手永会所』が置かれており、郡浦は名実ともに宇土半島の中心地であった。幕末郷内の青年達は『青海隊』を組織して洋式兵法の訓練を受け、皇居の警備に当たったこともある。明治30年10月、『青海高等小学校』が会所跡に設立された。『青海校』と呼ばれ、質実剛健、礼譲、勤勉を経営の柱として幾多の人材を世に送り、由緒と伝統ある学校としての誇りを持ち、親しまれてきた。それを示す大きな記念碑が、現在の(旧)青海保育園内に建立されている。時は流れて、昭和22年4月、この地に新制中学が設立されるに当たり、この伝統を子弟の教育に生かすために、この親愛の呼称を冠した『青海中学校』を校名とした。そこには郷土の誇りを永く持ち続けようという願いが込められていた。」

「青海」の名が「青海隊」から来ていることは知られていますが、では、「青海隊」はどこからその名前を持ってきたのか・・・。これまでいろいろな方にお話をしましたが、なかなかはっきりしません。ある方は、「真田十勇士」の三好清海入道(みよし せいかい にゆうどう)から来ているのではないかとお話しされ、また別の方は「西の海」から来ているのでは、ともおっしゃいます。できる範囲で聞いたり調べたりしてみましたが、正解にはたどり着いていません。どなたかご存じでしたら、ぜひ教えてください！

キビ刈り・キビ締め前のPTA役員会 ～ 最終確認をしていただきました ～

すでに、プリントで役割分担等についてはお知らせしたところですが、11月27日(水)の夜7時から、キビ刈り・キビ締めに係る動きについて、役員会にて最終確認をしていただきました。上の記事にも書きましたが、この作業を学校で30年以上続けるということは、並大抵の労力ではできません。今年もその歴史に一步を刻むということ、子供たちの故郷に対する愛情をはぐむという面からも大切にしていきたいと思います。写真は、6年生が釜の掃除をしたときの写真ですが、三角サトウキビ活性会の高濱会長、宮本さん、本校PTAの尾崎会長、施設環境委員長の長塚さん、その他の役員さんの姿も見えます。本番までの工程のあらゆる場面で助けていただきました。右下にはサトウキビを絞る機械が見えますが、会長曰く「80年くらいになるかな・・・」とのこと。歴史を感じますね。

